

2 子供の生活力に関する実態調査

キーワード

青少年、生活力、生活スキル、体験活動

1. 調査の目的

現在の青少年の「生活力」の実態を把握するとともに、「生活力」が体験活動や生活環境、保護者との関係等にどのように関係しているかについて明らかにし、「生活力」の向上を目指して実施される体験活動の在り方を考察するための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の概要

本調査では、生活スキルを「コミュニケーションスキル」「礼儀・マナースキル」「家事・暮らしスキル」「健康管理スキル」「課題解決スキル」の5つのカテゴリーに分類し、青少年（小学4年生・5年生・6年生、中学2年生、高校2年生）17,282名及び保護者（小学4年生・5年生・6年生の保護者）7,834名を対象とした質問紙調査を行い、体験活動や保護者の意識等との関係等の分析を行った。

各カテゴリー中の質問項目は下に示したとおりである。

コミュニケーションスキルに関する質問項目 ・人の話を聞く時に相づちを打つこと ・友だちが悪いことをしていたら、やめさせること ・初めて会った人に自分から話しかけること 等	礼儀・マナースキルに関する質問項目 ・「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと ・近所の人にあいさつをすること ・遅刻しないで学校に行くこと 等
家事・暮らしスキルに関する質問項目 ・洗濯物をきれいにたたむこと ・ナイフや包丁でりんごの皮をむくこと ・休みの日に着る服を自分で選ぶこと 等	健康管理スキルに関する質問項目 ・ふだんから積極的に体を動かすこと ・夜ふかしをしないこと ・毎朝、朝食を食べること 等
課題解決スキルに関する質問項目 ・一つの方法がうまくいかなかったとき、別の方法でやってみること ・トラブルがあったとき、原因を探ること ・目標達成に向けて努力すること 等	

図1 生活スキルのカテゴリー別質問項目

3. 主な調査結果

（1）子供の生活スキルの実態

生活スキルに関する質問項目について、小学5年生、中学2年生、高校2年生のそれぞれが「できる」と回答した割合の上位5項目、下位5項目は表1のとおりである。保護者が身につけるべきと考えている生活スキルの最上位である『「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと』が、各学年とも上位5項目の中に入っている。

また、子供の生活スキルの多くは、学年が上がるごとにできる割合が高くなるが、「毎朝、朝食を食べること」や「夜ふかしをしないこと」など生活習慣に関する項目は、学年が上がるごとにできている割合が低くなっている。

表1 生活スキルについて「できる」と回答があった割合（上位・下位5項目）

	小学5年生	中学2年生	高校2年生
1 毎朝、朝食を食べること	85.8%	休みの日に着る服を自分で選ぶこと	92.6%
2 遅刻しないで学校に行くこと	84.9%	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	90.1%
3 洗濯物をきれいにたたむこと	84.5%	マッチで火をつけること	90.0%
4 「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	84.5%	洗濯物をきれいにたたむこと	88.9%
5 近所の人にあいさつをすること	82.3%	毎朝、朝食を食べること	84.6%
23 初めて会った人に自分から話しかけること	58.3%	自分の家で東西南北の方角を示すこと	58.9%
24 家の人に起こされずに、決めた時間に自分で起きること	49.2%	初めて会った人に自分から話しかけること	57.6%
25 夜ふかしをしないこと	45.0%	友だちが悪いことをしていたら、やめさせること	53.9%
26 ナイフや包丁でりんごの皮をむくこと	43.9%	パソコンでメールを送ること	50.7%
27 パソコンでメールを送ること	21.0%	夜ふかしをしないこと	27.8%

(2) 子供の生活の実態と生活スキルの関係

次に様々な体験活動と生活スキルとの関係を見ると自然体験やお手伝い、読書をする
ことが多い子供ほど、生活スキルが高い傾向が見られる。

例えば、「ふだんから山や森、川や海など、自然の中で遊ぶこと」といった体験が多い
子供ほど、健康管理スキルが高く、お手伝いの頻度が高い子供ほどコミュニケーションス
キルが高い傾向が見られる。（図2、図3）

また、読書については、「本（マンガや雑誌以外）を読むこと」が「よくある」と答
えている子供ほど、課題解決スキルが高い傾向が見られる。（図4）

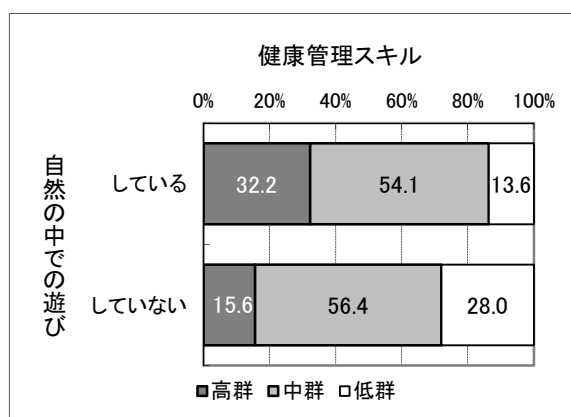


図1 「ふだんから山や森、川や海など、自然の中で遊ぶこと」と健康管理スキルの関係

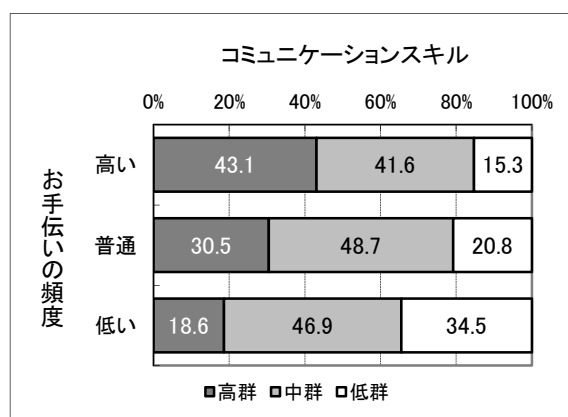


図2 お手伝いの頻度とコミュニケーションスキルの関係

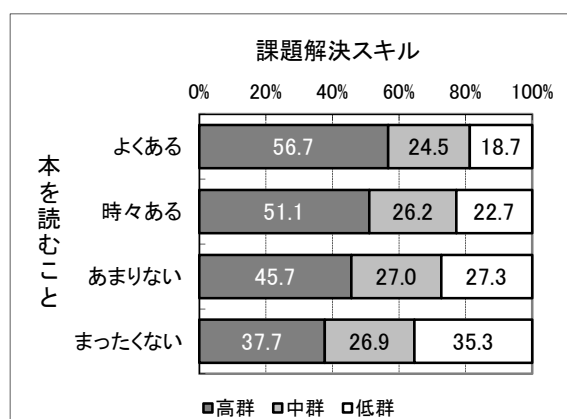


図3 「本（マンガや雑誌以外）を読むこと」と課題解決スキルの関係

（３）保護者の子供との関わりと子供の生活スキルの関係

保護者の子供との関わり方と子供の生活スキルとの関係については、保護者が「勉強以外の様々なことをできるだけ体験させている」など体験を積極的にさせている「体験支援」的な関わりをしているほど、また、「学校の無い日にも早寝早起きをさせている」など生活習慣を身につけさせることに力を入れている「生活指導」的な関わりをしているほど、その子供の生活スキルが高い傾向が見られる。（図５、図６）

その一方で、「よく『もっとがんばりなさい』と言っている」など体験を伴わない言葉での注意のような「叱咤激励」的な関わりについてはその子供の生活スキルとの関連は見られない。若干ではあるが、保護者の「叱咤激励」的な関わりが多いほど、子供の家事・暮らしスキルが低い傾向が見られるが、子供のこうした生活スキルが低い結果として「叱咤激励」的な関わりの機会が増えているということも考えられる。（図７）

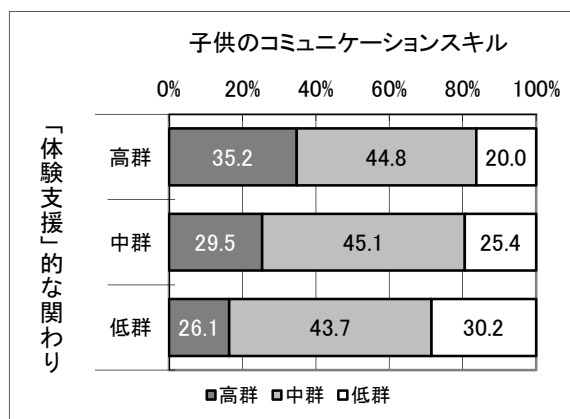


図４ 保護者の「体験支援」的な関わりと子供のコミュニケーションスキルの関係

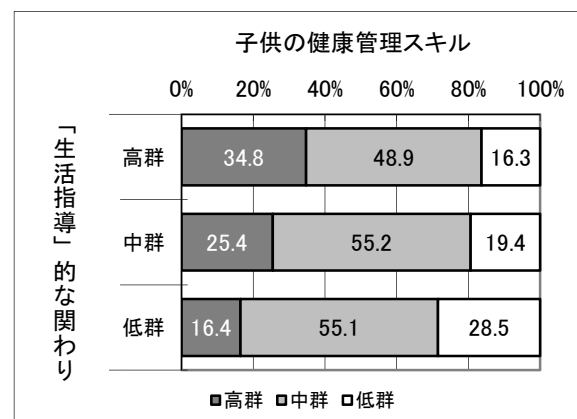


図５ 保護者の「生活指導」的な関わりと子供の健康管理スキルの関係

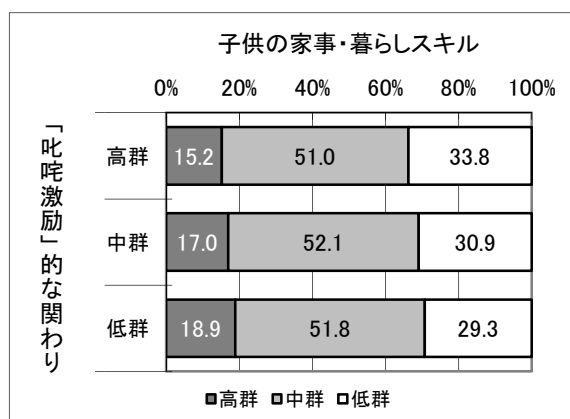


図６ 保護者の「叱咤激励」的な関わりと子供の家事・暮らしスキルの関係

「体験支援」的な関わりに関する質問項目

- ・自分の体験したことを話している
- ・子どものやりたいことをできるだけ尊重している 等

「生活指導」的な関わりに関する質問項目

- ・学校の無い日にも早寝早起きをさせている
- ・一日三食きちんと食事させている（給食を含む）等

「叱咤激励」的な関わりに関する質問項目

- ・よく「もっとがんばりなさい」と言っている
- ・よく小言を言っている 等

(4) おわりに

本調査の結果から、日頃から様々な体験を豊富にしている子供ほど、生活スキルが高い傾向が見られた。また、保護者が子供の体験を支援するような関わりをしているかどうかによって、子供の生活スキルの習得状況が異なる傾向が見られた。こうした結果からは、生活スキルの習得において家庭が果たす役割の重要性を改めて確認することができる。

近年、青少年の健全育成や家庭教育支援の観点から、子供たちが様々な体験ができる機会を、社会の中で意図的・計画的に提供するための施策が推進されている。本調査の結果は、こうした家庭や地域社会での体験活動の推進が、生活スキルの育成という観点からも意義を持つものであることを示していると言える。

(文責 青少年教育研究センター研究員 藤江 龍)